

宿 野 日  
隊 見 発  
「用水であそぼう」

夏休みに入って一息ついた7月30日(土)。新東光寺地区センターに集合した親子連れが、バケツを片手に目の前の用水へ入って行きます。これが、今回で4回目となった「用水であそぼう」の幕開け



でした。

当日はお天気も回復し、子ども16人、大人10人、スタッフ13人の参加者が揃いました。3班に分かれ、それぞれの担当の先生にアドバイスをもらいながら、田んぼの中や用水で、みんな夢中で魚を追いました。服が濡れてもこの日は怒られませんものね。

この「用水であそぼう」の企画は「日野の歴史ある用水に興味を持ってもらえたら」と「日野宿発見隊」が主催で始まり

ましたが、今では子どもも大人になった子どもも大盛り上がりの人気企画になっています。また、「日野宿発見隊」は日野図書館と地元商店会・住民のみなさまで作る混成チームなので地元の方と深い絆があるのですが、今回も現地の方の協力を頂いて、事前に用水のごみを拾ってくれたり草刈

りをしてくれたりと、大変お世話になりました。本当にありがとうございます。

全力で探し回る子どもたちにも疲れが見えてきたので約1時間で探索を終了し、その後は講師に迎えた鶴田大三郎先生からお話を聞きました。今回は鶴田先生も驚くほどたくさんの生き物が獲れたので、日野用水の水質が、生き物にとってとても良いのだろうとお話がありました。

獲れた生き物は

オイカワ、カワムツ、タモロコ、ムギツク、コイ、フナ、カマツカ、ギバチ、トウヨシノボリ、ドジョウなどの魚と水生昆虫、貝やカエルです。特記すべきことは、他の生き物をたくさん食べるトンボの幼虫も多く生息していることです。このことは餌となるさまざまな生き物がこの用水には多く生息していることを示しているのだそうです。

図書館員から生き物の本の

紹介もあり、最後は家では飼えそうもない生き物をまた放してあげて、みんな大満足の一日でした。

今回のような体験を通じて、子ども達が故郷日野への興味と誇りを育ててくれたら嬉しい限りです。そのためにも、環境保全や地域の交流を、また来年へ繋げなくてはと思っています。

(日野図書館

渡部 康弘)

